

伊豆半島におけるLepidocyclinaの新産地

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田村, 彰司 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00005901

に dike 或は Sheet が見られる。それ等は Basaltic andesite 或は Hyperthene andesites と gas por 多く、中には Margine が見られる。故に之等 dike 或は Sheet は氣は弱く急冷却のものであろう。不動沢北方 100m 位の地味(バンガロー入口附近)に、小さな石切場あり岩石は Basaltic andesite であるが propiritization を受けている故にこの附近の岩石より古いものであり香黄の岩石と似ている。この propiritization を受けた Basaltic Andesite の Cavity (晶洞)には Zeolite, Calcite の結晶がよく生成してあり小さいがよい結晶が得られる。この石切場から曾我浦片隧道南数十米の地点迄は、湯ヶ島統が見られ 礫は glassy な Andesite であり 魚見崎附近礫とは はつきり異つてゐる事が認められる。曾我浦片隧道南より赤根崎にかけて Dacite がみられる(久野博士は pyroxene Dacite と云つてゐる) この赤根崎から白石附近にかけては tuff が見られる。この tuff を貫いて Quartz vein あり又 Onion structure も見られる。この附近を久野博士は湯ヶ島統にしてゐる この白石南西 200m 位から上野賀町にはいるあたりまで pick-stone, pumice-tuff, Dacite が露出して居り、その附近では下部から pick-stone, Dacite, pumice-tuff と云う様な上下関係になつてゐるのがみられる

以上余りにも局部的な然も表面的な観察であるが 熱海野賀向をあるいた報告とします

伊豆半島に於ける *Lepidocyclina* の新産地

三年 田村彰司

最近までの報告に依ると 伊豆半島に於ける *Lepidocyclina* の産地は次の様なものである

田方郡下大見村下白岩

(石灰質砂岩)

全 北狩野村大野

()

また *Miogyrina* の産地としては

以上の産地は何れも湯ヶ島層群に属すると考えられ、略下部中新世(Lower Miocene)に当るものとされている²⁾³⁾ 湯ヶ島層群は伊豆半島の基盤をなし、主として火山砕屑岩よりなり一般にプロピライト化作用を受けているのがその特徴とされている

さて過般 当教室の先生方、学生によつてなされた宇久須仁村材附近の調査の際 採集された石灰岩を調べた結果 *Lepidocyclina* を含有する事を知つた、次にこの石灰岩について概略を述べる事とする

産地、静岡県田方郡仁科村白川入谷

産出層群について、本石灰岩の産地附近は田山利三郎、新野弘 氏によれば⁴⁾ 両氏の湯ヶ島層群の典型的露出を示す区域であるという、従つて本石灰岩は両氏の湯ヶ島層群に属するものと考へられる

石灰岩及びその含有化石について、採集された石灰岩は二ヶありそのうち一は Shell limestone であり、他の一は、おとむね白色緻密で表面に Organic remains が認められる。何れも tuff の小礫を挟んでいるこの白色石灰岩の薄片十数枚を作り 鏡檢した所ニヶの *Lepidocyclina* を得た 一標本は略完全な Vertical section を示している この *Lepidocyclina* はかなり大型 (diameter = ca. 6~6.5 mm thickness = ca. 2.4 mm) で太い柱状体 (thick pillars) を有し また周縁鰭 (peripheral flange) が発達するようである。未だ種名の決定に至らないが石灰岩の時代指示者として有力であると思う。その他 *Amphistegina radiata* Fichtell & Moll を普通に含みまた *Globigerina* その他の小型有孔虫を認めることである

その他多数の苔蘚虫 (Bryozoa) 珊瑚及び保存良好な石灰藻 (calcareous algae) - *Lithophyllum* 或は *Mesophyllum* 属と思われ一を多く含んで居る

結尾 伊豆半島の基盤を構成する地層の層序は、田山、新野両氏によつて次表のように決定され 而して白浜層群からは *Lepidocyclina nipponica* var. *iguensis* その他 (下白岩) 及び *Miogyssina* (梨本)

次発見され 時代は下部中新世とされた 最近、久野久小池清氏は伊豆修善寺附近に発達する所のプロピライト化作用を受けた岩層(輝石安山岩質累層及び下白岩の *Lepidocyclina* を含む石英安山岩質凝灰岩層)を湯ヶ島層群に一括しても層位学的に何等の矛盾を生じないとしている。

松	崎	月	群
白	浜	石	群
立	岩	石	群
青	市	石	群
湯	ヶ	島	石
			群

さて上述の石灰岩の層群は 田山及び新野両氏の云う湯ヶ島層群に属すると考へられる 而も *Lepidocyclina* を含む事次第のた。而して石灰岩の時代如何と云うと、それは該標本の正しい測定に俟たなければならぬが、大体下部中新世とおさえて置いてよからうと思う。終りに石灰岩検査には磯島先生から種々の御教示を戴いた。茲に御礼申上る次第である。

References.

- 1) 田山利三郎 新野弘 (1931) 伊豆半島地質概観 (青森報社報第15号)
- 2) 半沢正四郎 (1936) 伊豆半島に於ける *Lepidocyclina* 及び *Miogyssina* の新産地 (地質学雑誌 37巻 447号 附報)
- 3) 久野久小池清 (1949) 伊豆修善寺附近の湯ヶ島層群に就て (地質学雑誌 55巻 641号)

静岡市西北高山附近の地質について

三年 六 浦 通 玄

序 静岡市西北方の瀬戸川層群は安倍川-大井川に亘り分布する複雑な構造を有し 化石産出の稀は従つて時代決定に困難な 砂岩-頁岩互層の地層群である。其の南半の研究は千谷好之助により行はれ(1928) 七万五千分之一地質図静岡岡中及び同説明書に其の記載あり。又 旗山次郎の調査研究(1951) は、日本地方地質誌中群地方其の他に発表され